

平成 29 年度 第 2 回収蔵文書の紹介展

学校の記録から見えてくるもの — 学校資料の収集を通して —



2017.10.14(土)–12.27(水)

※土曜の午後，日曜，祝日は休館。入場無料。

広島県立文書館展示室

広島市中区千田町3丁目7-47 広島県情報プラザ2F

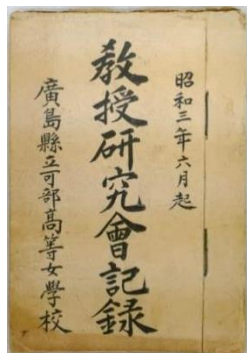
学校の記録から見えてくるもの

— 学校資料の収集を通して —

広島県立文書館では、学校資料の収集・保存・活用に取り組んでいます。学校資料とは、学校の諸活動全般に関する資料（文書類・現物など）です。具体的には、学校運営に関する文書、生徒・職員に関する文書、校舎などの施設・設備、教材・教具、PTA 活動関係文書など多岐にわたります。当館では主に文書類に関して収集・保存・活用を行っています。

近年の少子化の影響等により、全国的に学校の統廃合が進んでいます。広島県においても、県立学校（高等学校）については平成 16 年～24 年の間に分校 4 校を含め 14 校が廃校となっています。このような状況の中で、一部の学校資料を除き、これまで学校で保有・管理されてきた学校資料は散逸・廃棄の危機に瀕しています。

この展示では、これまで当館が県立学校より直接受入をしました学校資料を中心に紹介します。学校資料は、資料を通して見えてくる学校の歴史はもちろん、当時の社会変化の状況など学校をとり巻く環境の変化を知ることができます。このような学校資料のもつ歴史的な意義について考えてみたいと思います。



教授研究会記録 広島県立可部高等女学校

教授研究会記録は、現在の研究授業後の検討会記録に相当するものである。授業担当者が作成した指導案に基づいて授業を実施後、検討会を実施。昭和 3 年から昭和 9 年までの教授研究会が記録されており、昭和初期の授業展開や評価などを知ることができる資料である。

たとえば、「国語科教授案」では教材、目的、教程、教法が示されている。

大正 5 年 学籍簿 深安郡立農事講習所

現在の神辺高等学校の前身は、大正 5 年に設立された深安郡立神辺農事講習所である。設立期の学籍簿、すなわち生徒の指導記録が残されていることは極めて稀である。設立当初の修業年限は 1 年間で、大正 6 年 11 月 29 日に卒業である。この学籍簿には大正 8 年入学生までの記録が綴られており、評価点による席次が記入されている。



広島県立文書館

開館時間 9:00～17:00(土曜日は 12:00 まで) ※日曜日・祝日・休日は休館

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47 / TEL 082-245-8444

E-mail monjokan@pref.hiroshima.lg.jp / URL <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/monjokan/>

